

女性内性器に存在する異所性子宮内膜様組織の研究へご協力のお願い

1. 研究の名称：

研究課題名：『女性内性器に存在する異所性子宮内膜様組織と女性内性器がんの関連の検証』

2. 研究の対象：

国立がん研究センター中央病院婦人腫瘍科において、2016年11月から2019年10月までに女性内性器がん（卵巣・卵管・腹膜がん、子宮体がん、子宮頸がんなど）治療の目的に子宮、卵巣・卵管などの全摘術を施行される患者さんが対象です。

3. 研究の概要：

子宮内膜症の発生起源は諸説あり不明です。子宮内膜症から一部の卵巣がんが発生することが知られています。本来は子宮内膜腺が存在しない子宮の漿膜側や卵巣・卵管付近に、潜在的に子宮内膜腺様の組織が存在し、骨盤内膜症と呼ばれますが、これまで詳細に調べられたことはありませんでした。われわれはこの組織を『異所性子宮内膜様組織』と名付けて、子宮内膜症の発生起源であると考えています。そして、その存在頻度や存在部位を、すでに手術を受けられて摘出された子宮を調べることで検討してきました。この後ろ向き研究の結果、卵巣・卵管・腹膜がん患者さんではこの『異所性子宮内膜様組織』が子宮頸がんや子宮体がんの患者さんよりも多く見つかることが示唆されました。

本研究では、卵巣・卵管・腹膜がん、子宮体がん、子宮頸がんなどのためこれから手術を受け子宮や卵巣・卵管の摘出術を受ける患者さんの、子宮や卵巣・卵管などに存在する『異所性子宮内膜様組織』の存在頻度と存在部位を明らかにすることを目指します。

本研究は、国立研究開発法人国立がん研究センターの「国立がん研究センター研究倫理審査委員会」で厳密な審査を受けており、その承認と理事長の許可を受けて実施するものです。

4. 研究の意義：

卵巣・卵管・腹膜がんと異所性子宮内膜様組織の関連が示されれば、子宮内膜症と異所性子宮内膜様組織の関連も疑われ、子宮内膜症の発生起源についての研究が進むと考えられます。また、子宮内膜症の発生起源がわかれば、卵巣・卵管・腹膜がんの発生予防および病因の解明にさらなる前進の一助になると考えられます。

5. 研究の目的：

手術により摘出された子宮や卵巣・卵管の摘出病理標本の鏡検により、子宮や卵巣・卵管での異所性子宮内膜様組織の存在と分布状態を詳細に確認して治療適応となったがん腫別に関連を検討し、異所性子宮内膜様組織の病因や臨床的意義を明らかにすることを試みます。

将来的には、本研究の結果が卵巣がん診療において、より効果的な診療を行う助けとなると考えています。

6. 研究の方法：

国立がん研究センター中央病院において、婦人科がん（卵巣・卵管・腹膜がん、子宮体がん、子宮頸がんなど）に対して手術を施行され、摘出された子宮や卵巣・卵管に存在する異所性子宮内膜様組織の存在頻度と存在部位を調べます。また、患者さんの診療録から、疾患、年齢や月経・妊娠歴などの情報を収集し、病理診断・治療内容を検討します。

7. 研究の期間：

この研究の実施期間は、研究許可日から3年間の予定です。

8. 研究に用いる情報・試料の種類

本研究で使用する情報：カルテ番号、病歴、病理診断、治療方法 等

本研究で使用する試料：手術で摘出した組織のプレパラート

9. 情報の公表

学会発表や論文公表などにより研究結果を報告することがあります。

10. 個人情報に関する配慮：

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

11. 照会先および研究利用を拒否する場合の連絡先

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院 婦人腫瘍科 植原貴史（研究代表者/研究責任者）

TEL: 03-3542-2511

FAX: 03-3542-3815